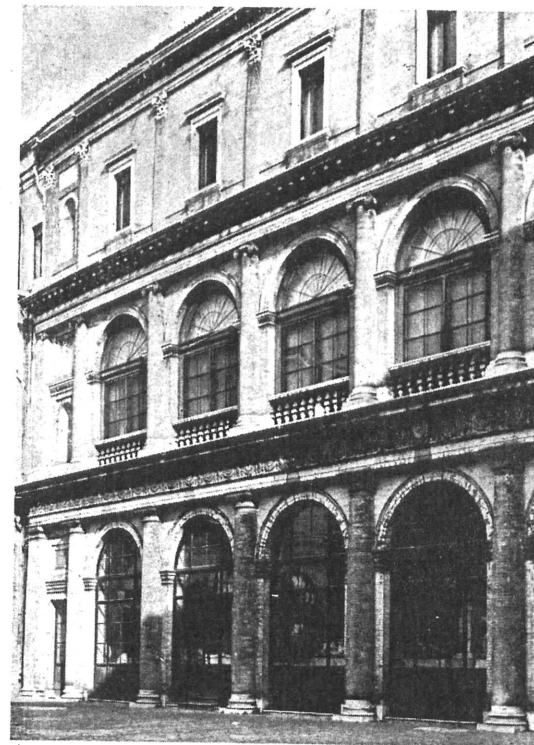
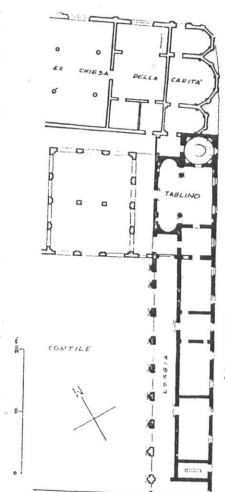
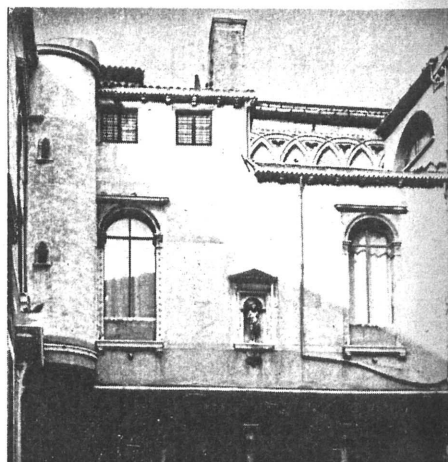
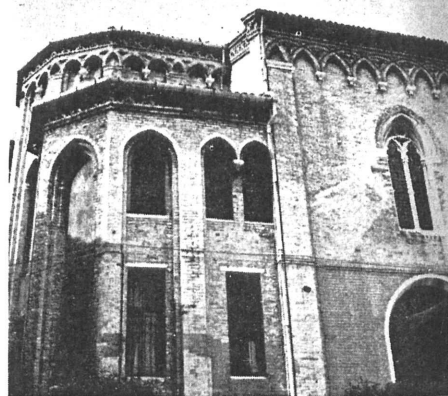
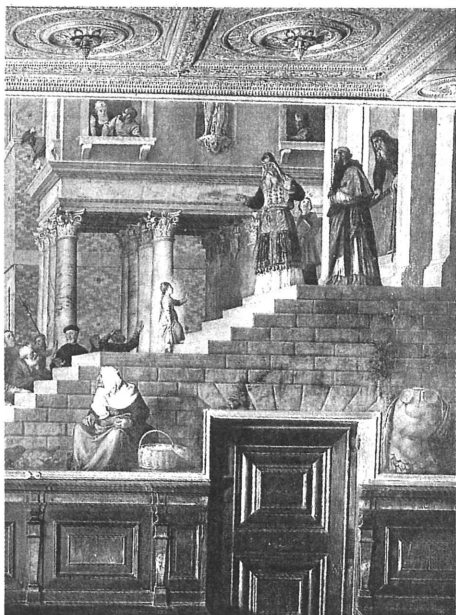


アンドレア・パラディオ Andrea Palladio

アンドレア・パラディオ（パドヴァ、1508年-ヴィチエンツァ、1580年）は16世紀のヴェネト地方の建築界で最も有名な建築家であり、建築書の著者。彼の作品と理論は次の世紀のイタリア国内や特に外国の建築に著しい影響を与えることになる。パラディオの素養はヴィチエンツァと1541年から1547まで古代建築の研究で滞在していたローマで養育された。最初ヴィチエンツァで活躍し（バシリカ、バラッツォ・キエリカーティ）、1561年からヴェネツィアでカリタ修道院、サン・ジョルジョ教会、レドントーレ教会などの仕事をした後、またヴィチエンツァに戻り、バラッツォ・ヴァルマラーナ、バラッツォ・ティエーネ、ロジッア・デル・カピターニオ、テアトロ・オリンピコをつくり、全ヴェネト地方のヴィッラ（ヴィッラ・ヴァルマナーラ「ラ・ロトンダ」、マゼールのヴィッラ・バルパロ、ロネードのヴィッラ・ピオヴェーネ、ファンゾロのヴィッラ・エーモ、ヴェネツィアに近いヴィッラ・マルコンテンタなど）を手がけた。その精力的で創造力豊かな建築的活動は、1570年に出版された建築四書にまとめられた著作活動にも及び、彼の建築同様に文化面で多大な影響を与えた。パラディオの芸術は厳格な古典的原理にもとづくが、各建物の様々な機能的、環境的必要にそって解釈された平面と空間の構成に多くのヴァリエーションを示す。舞台装置的外観と風景にうまく挿入されている建築は、ヴェネト地方のヴィッラやヴェネツィアの教会の中に最も適切な形で表現され、建築史の中でも最も美り多いものの一つとなっている。

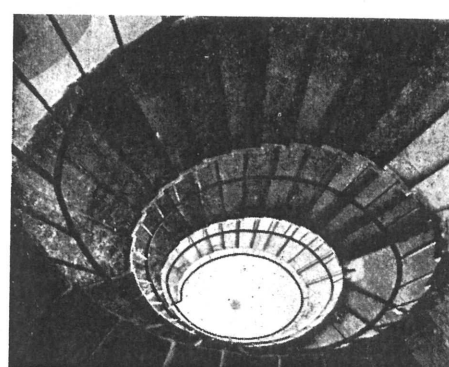
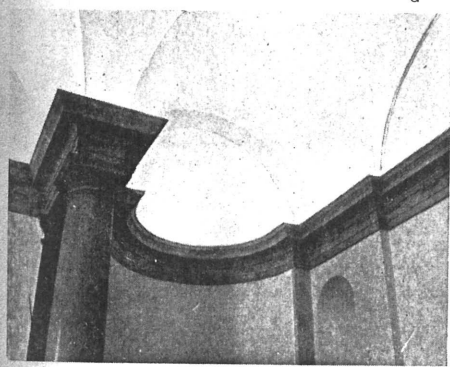


a) 聖母マリアの奉獻。スクオーラ・デッラ・カリタ（現在のアカデミア美術館の一部）の宿泊の間。ティツィアーノ、1534 - 38年
 b) カリタ教会
 c) アカデミア美術館の中庭
 d) 主要中庭に面するパラディオによるファサード
 e) 応接間。パラディオ
 f) 楕円型らせん階段。パラディオ

65

カリタ修道院, パラディオ, 1552年
 Convento della Carità

旧カリタ修道院は1807年から、教会（b）とスクオーラと共にアカデミア美術館の一部となっている。1750年に創立されたアカデミア美術館は、1756年から1807年までサン・マルコ広場の旧穀物倉庫に本部があった。修道院の建物は1552年にパラディオの壮大な計画によって改築された。この改築が完成しないまま、教会の横に

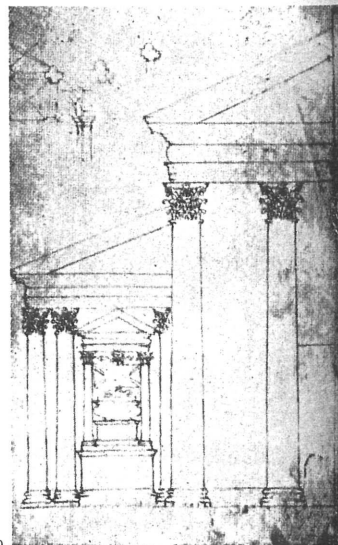


つくった柱列に囲まれた中庭も、17世紀には火事によって破壊されてしまった。後の改築は1808年-1011年までセルヴァによって行われ、何十年か前にも再び行われた。パラディオのヴェネツィアでの初の作品は、大きな中庭とリオ・テッラ（埋め立てられた運河）の間の翼と、内部の「らせん」階段、2つ計画されたうちの残存するタブリーノ（応接間）に残っている。3層に重なったオーダーのある中庭に面したポルティコとロジッアの広

い連続アーチは、古代ローマ建築の再現である。非凡なレンガの使い方とアーチの上の小さな窓だけの開口部の少ない最上階は、ヴェネツィアの伝統的建築をルネサンスのモニュメンタルな外観によって解釈したものである。タブリーノは2つに空間で構成され、壁とコーニスが平面的な部分とカーブしている部分とが溶解している。楕円形でシンプルな階段は、構造的な洗練と調和のとれた空間的展開を示す傑作である。



a



b
 パラーディオによるサン・ジョルジョ教会のファサードのオリジナル図面, Royal Institute of British Architects ロンドン所蔵 (R.Wittkower, "Architectural Principles" より)

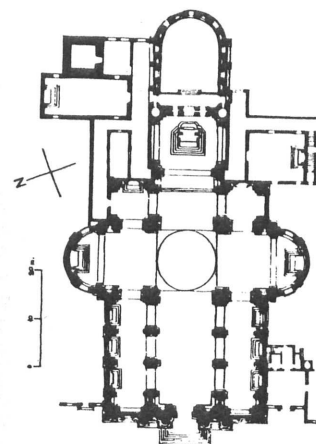
- a) サン・ジョルジョ教会の内部
- b) ファサードの図面
- c) 聖歌隊席
- d/e) パラーディオによる回廊
- f) ロンゲーナによる大階段

66

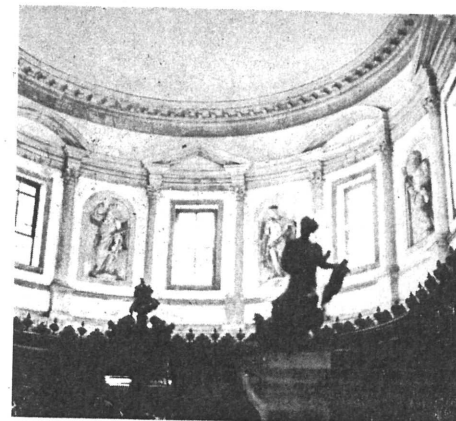
サン・ジョルジョ・マッジョーレ：食堂，糸杉修道院回廊，教会，アンドレア・パラーディオ，1559-1614年，図書室，大階段，ロンゲーナ，1641-1653年 S.Giorgio Maggiore: Refettorio, Chiostro dei Cipressi, Chiesa

16世紀後半から17世紀前半にかけて，パラーディオとロンゲーナによってサン・ジョルジョ島の2度目の建築的革新が行われた。サン・ジョルジョ島におけるパラーディオの最初の作品は，ポルティコ，階段，中庭によって徐々に組み立てられる壮大な空間である大食堂（1559-63）で，P.ヴェロネーゼの有名な「カナの結婚」があった（現在はルーブル美術館所蔵）。他のパラーディオの作品は「糸杉」修道院回廊（d/e）で，1579年に建設が始まり，パラーディオの死（1580年）の後の1614年に完成した。サン・マルコ沖の水面に向かって

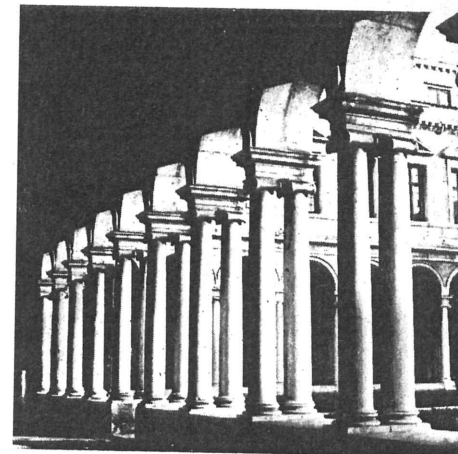
「新しい客室」が作られ，修道院というより豪華なバラツォの中庭のような雰囲気を持ち，政治的な迎賓の間として機能していた。1566年にパラーディオは新しい教会（a/b）を建て始め，そのファサードはシメオーネ・ソレラによって引きつがれ，彼は元のデザインに完全には従わずに1610年にそれを完成した。パラーディオの教会は，15世紀の教会とは向きを違え，サン・マルコ沖にファサードを面し，舞台装置的で，都市計画的な新しい機能を見せている。プランは両端に半円形のエクセドラのある翼廊（トランセプト）と中央ドームのある両端に半円形の3廊式で，内陣に加えて，聖歌隊席（c）の空間にそって展開する円柱のついた壁が非常に洗練されている。この教会は床がだんだん高くなり，身廊，翼廊，内陣，聖歌隊席の間で大きさや明るさや変化することによって，結果として構造的に明快で全体的には舞台



d



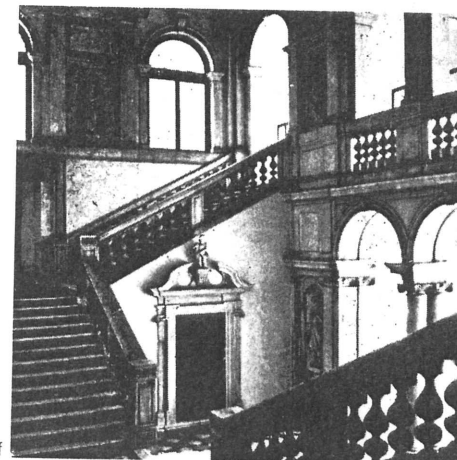
c



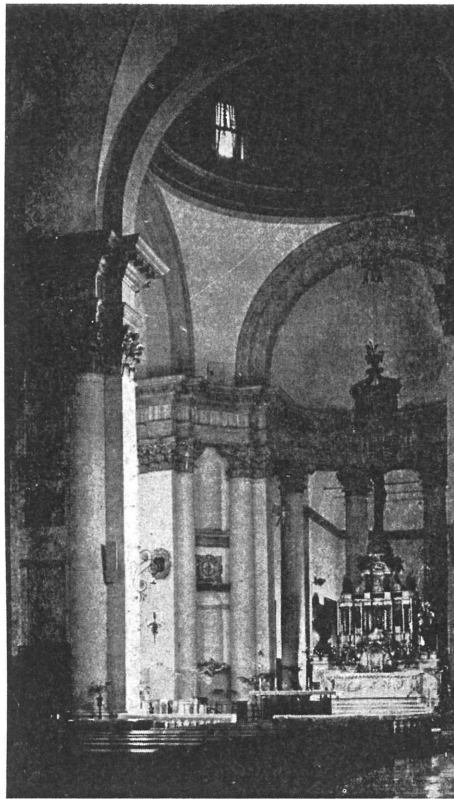
e

装置的な壮大な建築になっている。

1641年にロンゲーナはパラーディオの修道院回廊の西翼に大階段を（f）作り，ポルティコと上階のロジヤを一つの空間の中で結ぶという，ヴェネツィアにとっては異例のモニュメンタルな展開を見せている。1641年から53年までロンゲーナは2つの修道院回廊を繋ぐ図書館を再建し，ここには後の1665年から71年の間にドイツの彫刻家フランチェスコ・パウクによって書架がつけられた。（49と96参照）。



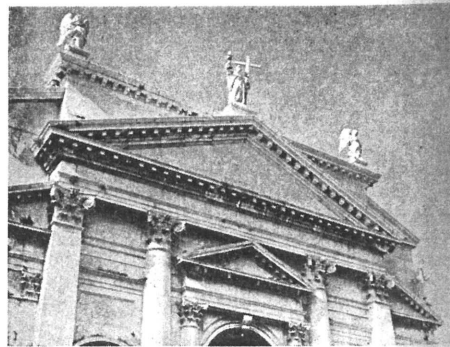
f



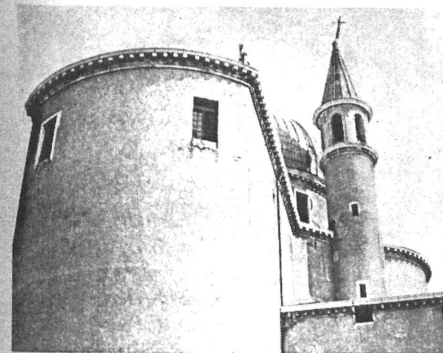
67

レデントーレ教会, パラーディオ, 1577-92年
Chiesa del Redentore, Giudecca

1576年のベスト流行の後に元老院によって建てられたレデントーレ教会は、サルデーテ教会(75)同様、奉納された教会の古典的な例を示している。毎年7月の第3日曜日には総督が訪れ、これがジュデッカ運河で行われる有名な夜祭りの起源となった。アンドレア・パラーディオの設計によって1577年に建設が開始され、アントニオ・ダ・ボンテの協力によって工事が進められ、1592年に献堂された。モニュメンタルなファサードは、ヴェネト地方のヴィッラのように、切り石積み大きな階段の上に置かれている。その建築的表現は、正方形と



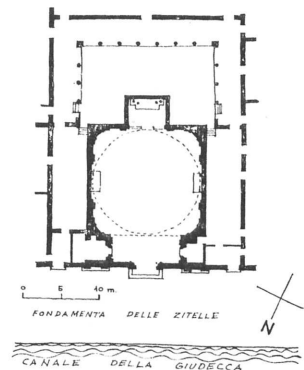
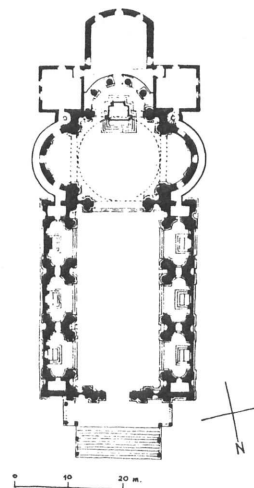
三角形の幾何学的形態の明確なコントラストにおいて、シンプルで壮重である。側面、バットレス、翼廊、アプス、ドーム、小鐘楼など建物の他の部分では、効果的なボリュームの組み合わせによって幾何学的な簡素さが強調されている。長堂式プランと中央集中式が結ばれた内部は、両横に3つずつ礼拝堂のついた身廊と、エクセドラ式翼廊をもつ大ドームが載った内陣、半円状に巡るコリント式列柱の背後の聖歌隊席で構成されている。身廊、内陣、聖歌隊席の床には段差があり、一つの空間的、舞台装置的な考え方で統合されている。この教会はアンドレア・パラーディオの宗教建築の傑作と見なされている。

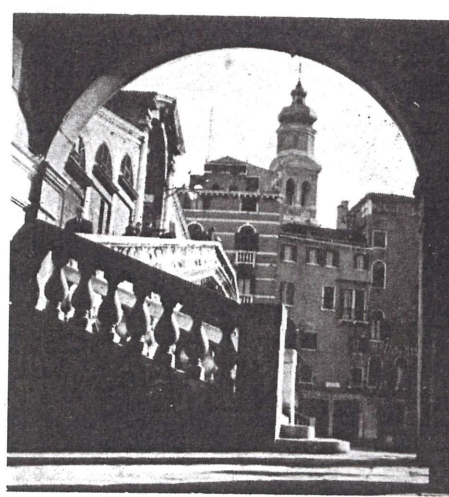
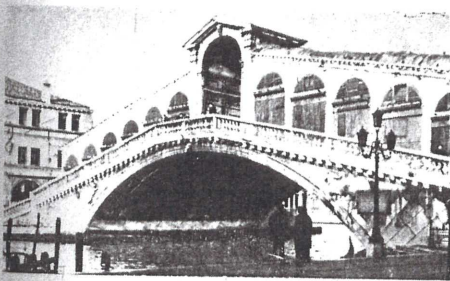
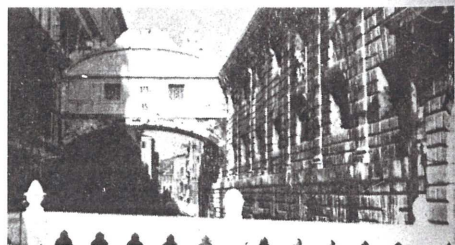
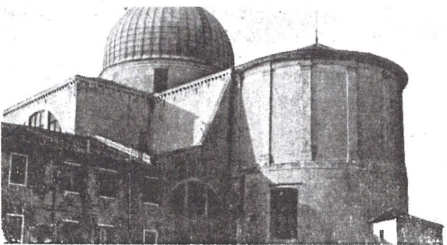


68

ジテッレ教会, パラーディオ, 1582-86年
Chiesa delle Zitelle

教会は、ヴェネツィアの貧しい未婚女性を集め教育を行った、一種の慈善施設であるジテッレ(未婚女性の意)のオスピーツィオに属している。アンドレア・パラーディオの設計により、ヤコポ・ボツェットが1582年から1586年の間に建設した。教会とオスピーツィオはひとつの建物で構成されている。教会は正方形のプランで、音響効果のために角が丸みを帯びている。これは、ビエタ教会(90)や他のオスピーツィオ同様、女性たちがここで時々コンサートを行っていたからである。屋根には大ドームがのり両横に小鐘楼がついている。教会は三方をオスピーツィオで取り巻かれ、アプスの背後に優雅な柱廊の巡る中庭がある。ジュデッカ運河に面したこの教会のファサードは両横の建物とともに、内部空間の構成に従ってシンプルにつくられ調和がとれている。





69

サン・ピエトロ・ディ・カステッロ教会, F. ズメラルディ, A. グラビーリア, 1596-1619年
San Pietro di Castello

旧名オリヴェオロといわれたこの島には、すでに7世紀には聖セルジョと聖バッコに捧げられた教会があった。何度も再建され、ここにヴェネツィアの司教座が置かれた。1451年に、グラードの大司教がヴェネツィアの総大司教に転じ、この教会は1807年にサン・マルコ寺院

(4)に総大司教座が移るまでヴェネツィアの大聖堂であった。現在の教会は1596年にフランチェスコ・ズメラルディによって、先のバラディオのモデルを踏襲しながらファサードから建て始められ、1619年にG.グラビーリアによって引き継がれた。ファサードはレデントーレ教会(67)に似ているが、三廊式の身廊とドームの載った翼廊はサン・ジョルジョ島の教会を、より思い起こさせる。教会の横には16世紀のシンプルな柱廊つき中庭があった大司教館があり、1807年からは兵舎であったが、現在は荒廃している。広場の離れた所に、1482年から1488年にかけてM.コドッチによって再建された優雅な斜塔があり、昔はドームが載っていたが1670年に壊された。ヴェネツィアで最も美しく、均整のとれた鐘楼のひとつである。

70

牢獄とため息の橋, ダ・ポンテ, コンティーノ兄弟, 1565 - 1614年 Le Prigioni e il Ponte dei Sospiri

この牢獄はそれまで総督宮殿にあった共和国の牢獄を拡張するために、スキアヴォーニ岸を望む、市民が夜警の任務についていた最も古い司法官「夜の刑吏」の部屋に、16世紀末に建設された。総督宮殿を拡張する必要性から、有名なため息の橋を渡った所につくられている。1563年にジョヴァンニ・アントニオ・ルスコーニによって内部から開始され、1589年からアントニオ・ダ・ポンテに引き継がれ、1614年に彼の二人の甥、アントニオとトマゾ・コンティーノによって完成された。運河に面するファサードは付柱と切り石積みで作られ、シンプルで力強い。スキアヴォーニ岸に面する主要部は、背後にある部分とはあまり一貫性がない。ポルティコと上階の部屋で構成され、堅固で落ち着いた外観を見せ、大きくリズムミカルな開口部が、サン・マルコ広場のさらに古い建物の調子を継承している。ため息橋は1600年にアントニオ・コンティーノによって作られ、バロックの新鮮な湾曲した形がここでは自然に用いられ、水の上の空にかかる橋によく合っている。

リアルト橋にある「受胎告知」の浮彫り。A.ルビーニ, 1590年

71

リアルト橋, アントニオ・ダ・ポンテ, 1588-91年 Ponte di Rialto

リアルト橋は19世紀まで何世紀にも渡り、大運河を渡る唯一の歩道橋であった。もともと12世紀に小船を繋いだ橋はあったが、12世紀中頃から木のはね橋になった(カルパッチョの有名な絵に見ることができる)。何度も再建、修復され、最後にG. スバヴェントによって1501年に修復された。1524年に石で建て換えることになり、ミケランジェロ、バラディオ、ヴィニョーラ、サンソヴィーノ、ダ・ポンテ、スカモッツィ、その他の設計案が提示された。その中からアントニオ・ダ・ポンテ

が甥のアントニオ・コンティーノの協力を得て、1588年から1591年にかけて工事を完成させた。橋は28mのアーチでひとまたぎで架けられ、24mの幅広い橋上には、12のアーチがついた2列の店舗が、2つの中央アーチを挟んで並んでいる。2列の店舗の間とパノラマの開ける両側に、計3本の歩道ができています。全体には落ち着きのある壮大な建築物になっている。いづれにしてもその価値は形態に内在するものを越えている。事実リアルト橋は今やヴェネツィアの景観や環境と切り離すことができないどころか、水陸両方の通行が可能な、類いまれな都市形成のシンボルとして見なされている。